

世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會近況

會員 工學博士 神原信一郎*

第2回大堰堤會議に處する爲、日本國內委員會に於ては昨年7月第2回大堰堤會議論題調査小委員會を設け、之を下記5分科會に分ちて夫々調査研究を開始した事は前回の近況報告に記した通りである(土木學會誌第20巻第9號1090頁)。

第1分科會	既設大堰堤の安全度の探査方法	主査 森原 俊一君	委員 4名
第2分科會	土堰堤々體の漏水に依る危險防止方法並に土堰堤及コンクリート堰堤の基礎地盤に對する工法	主査 中川 吉造君	委員 6名
第3分科會	土堰堤の安定度の算定		委員 5名
第4分科會	堰堤基礎地盤の地質工學的研究	主査 神原信一郎君	委員 2名
第5分科會	堰堤築造用特殊セメントの研究	主査 藤井 光濶君	委員 6名

然るに昨昭和9年10月17日倫敦に開催の執行委員會に於て種々討議の結果、第2回會議論題として下記5問題が採擇決定された。

- (1) 堰堤築造用特殊セメント
- (2) 伸縮接手の設計と止水工法
- (3) 石造及コンクリート堰堤表面の保護材料の研究
- (4) 堰堤基礎地盤の地質工學的研究
- (5) 土堰堤安定度の算定方法

上記論題中(1)(4)(5)は既に専門分科會に於て調査研究を進められてゐるが、(2)及び(3)に關しては分科會を増置する必要を認め、本年3月下記第6及び第7分科會を設けた。

第6分科會 伸縮接手の設計と止水工法

擔任委員 主査 大井川電力株式会社取締役工學博士 新井 榮吉君
 第二富士電力株式会社囑託 瀬戸 角馬君
 鐵道技師 阿部 謙夫君
 增 谷 悠君

第7分科會 石造及コンクリート堰堤表面の保護材料の研究

擔任委員 主査 選信技師 野口寅之助君
 選信技師 高橋 三郎君
 内海 清温君

上述の各分科會の研究實施には相當多額の經費を必要とし、從來の日本國內委員會經費より之を支出する事は到底困難となつた爲、中川委員長に於て之が捻出に付各方面に奔走中であつたが、豫て援助申請中であつた學術研究補助團體たる啓明會、日本學術振興會及び服部報公會等より夫々研究費の援助あり、其他關係會社等よりも研究費の寄附を得たので不充分ながら之を各分科會より提出の豫算に依つて夫々割當て、各分科會委員に於て、漸々調査研究を進め、日本代表論文として恥しからぬ權威ある論文を起稿し、併せて此等援助を與へられた團體並に會社等の好意に添ふ可く努力を續けて居る。

第2回大堰堤會議開催期に關しては、昭和8年6月ストックホルムに於ける1933年度執行委員會に於ては

* 東京電燈株式会社理事

昭和 11 年米國に開催予定の世界動力會議第 3 回總會と併行して開催の事に決したが、翌年に至り米國は其國內的事態に依り世界動力會議開催を 1 年延期する事を表明した爲、第 2 回塚堤會議も従つて昭和 12 年米國で開催の事となつてゐた。然るに本年 7 月の世界動力會議國際執行委員會に於て米國より突然の提案を受け第 3 回總會を明昭和 11 年 9 月の終りに華盛頓に於て開催する旨の決定を見、第 2 回塚堤會議も亦之に追隨して同時同所に開催と決定した。次いで 8 月 20 日常設事務局より明年 1 月 1 日迄に論文の提出を要する旨の通牒があつた。是は日本國內委員會としては尠なからざる迷惑である。従つて本委員會は急遽緊急幹事會を開催して之が對策を講じ、先づ各論文起草者に末期日迄に脱稿提出の能否を照會すると共に、各分科會に於ても之に就て協議を行つた結果、第 7 分科會に於ては右期日迄には到底論文を起草するに足る資料を得られない爲、今回は提出せざる事に決定した。

次で 9 月 27 日専門分科會聯合會を開催の結果第 3 分科會、第 5 分科會の起草論文は假令提出が少しく遅れども之を提出することとし第 4、第 6 及第 7 分科會の論文は大體不提出の豫定となつた(第 1、第 2 分科會は論題に採擇せられざりしを以て當初より國內的研究に止めたものである)。併し乍ら各分科會共第 2 回塚堤會議に論文を提出すると否とに拘らず各論題の研究は之を續行する事となつた。其は之等の研究が國內的にも必要であり今後の國際的研究にも備へる爲である。